

詩集

【全共闘運動五十周年を迎えて】

心優しきちいさな群へ

7月末日発行 山秋隆大著 定価1000円＋税 第三書館刊
ボクは、たくさんの「爆弾」をかかえて、生きてきた。
その中の、いくつかの小さなものは、「爆発」したが、
生命を失うことはなかった――。

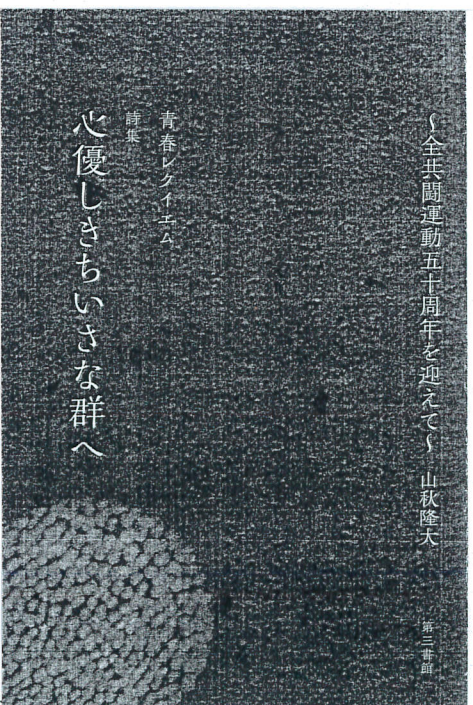
あの日々から半世紀 いま筐中から蘇る あの日あの想い
古希を目前にして初めて陽の目を見た 1968年の記憶

「市民社会」は、それ自体が貪欲な権力性を内在し、
市民権を得ることが権力志向となる限り、
虚構の演技を強制されることになる。
それは自己疎外以外の何ものでもない。

繰り返し 繰り返し 自らに
問い返した二十才の不安と決意

汚れなき孤立を^{はじら}含羞いながら
ボクは菜の花畑に横たわる。
薄命なピエロの微笑が
権力を撃つとき、
ボクは武器をとる。

あの日々の空気と熱気を
今ここに伝える40の詩編



帖合

第三書館

FAX 03-3208-6623

冊 詩集

心優しきちいさな群へ

ISBN978-4-8074-1828-2

定価1000円＋税